



第74号

令和2年10月発行

発行

愛知県がんセンター

Tel. 052-762-6111(代)

## 病院機能評価「一般病院3」の認定

当院は、病院機能評価「一般病院3」の認定を受けました。

病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みであり、第三者機関である（公財）日本医療機能評価機構が、科学的・専門的な見地から中立・公平な立場に立って評価を行う病院の質改善活動を支援するツールです。

当院では、2004年9月27日に初めて認定され、その後、認定期間（5年）満了毎に認定の更新（2009年及び2014年）を行ってきました。今回の更新では特定機能病院を対象とした「一般病院3」（主として、高度の医療の提供、高度の医療技術の開発・評価、高度の医療に関する研修を実施する病院または準ずる病院）の区分で2020年2月6日から8日までにわたり受審した結果、補助的な書面審査を経て、認定されました。前回の認定期間から引き続きの認定で、認定期間は2019年9月27日から2024年9月26日までとなっています。

今後とも、患者さんの立場に立ち、更に質の高い医療の提供と安全で安心できる病院を目指して努力してまいります。



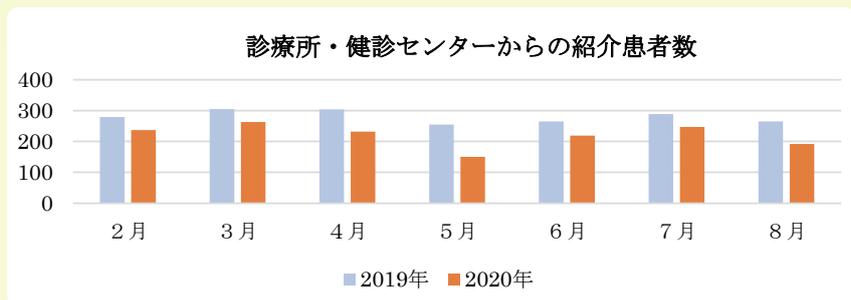
## 毎年行っているメディカルチェックを受けましょう

新型コロナウイルス感染症が日本で急速に拡大し始めた2020年2月以降医療事情ががらりと変わりました。この感染症は未知な部分も多いのですが、正しく恐れ適切に行動することが重要と思われます。感染はクラスターにより拡がるため、マスクを着用し3密を避けて大声での会話や大人数の会食に注意が必要です。

現下のコロナ禍において小児科と耳鼻科の診療所で患者数が激減していると報道されています。「がん専門病院」である当センターでは2月より患者数が減少し、徐々に回復傾向でしたが第2波の到来と愛知県独自の緊急事態宣言で新規来院患者さんが減少しています。がんは「不要不急」の疾患ではありませんが、外来や入院患者数は2割程度減少しました。特に呼吸器および消化器系疾患で顕著です。また、新規来院患者さんの中には従来よりも病期が進んだ状態での紹介が目立つようになりました。

どの領域も早期がんは症状がありません。検診や人間ドックは今まで通り受診し、気になる症状があればかかりつけ医に相談し、検査を受けていただくようお願いいたします。がんの発生は一定の割合で起こることが予想されます。海外のように症状出現後の受診では、治療に時間や費用が多くかかることとなります。日本の培われてきた良い診断システムを是非利用していただき、早期発見・早期治療を目指したいと思います。

病院長 丹羽康正



# 遺伝性乳がん卵巣がん症候群 (HBOC)

～2020年4月よりHBOCに関する診療の一部が保険適用となりました～



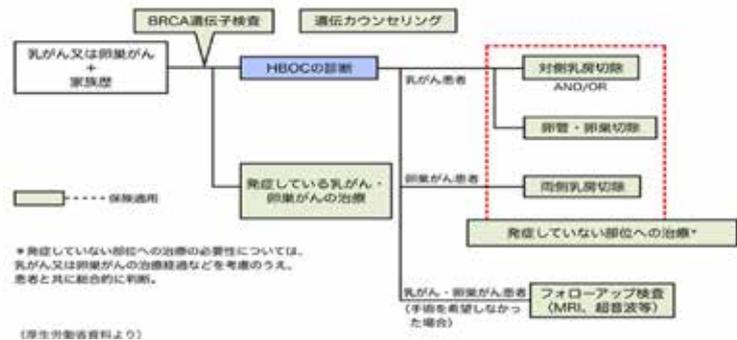
乳腺科部 医長  
吉村 章代

## ●遺伝性乳がん卵巣がん症候群 (HBOC) とは

BRCA遺伝子の生まれながらの変化のために、卵巣がんや乳がんを発症しやすい体質を持つことを『遺伝性乳がん卵巣がん症候群 (HBOC)』といいます。HBOCの方が70歳までにがんを発症するリスクは、女性乳がん50-60% (男性乳がん1-7%)、卵巣がん20-40%、前立腺がん20-40%、膵がん3-8%とされています。遺伝子の変化は、親から子へ50%の確率で伝わります。乳がん患者さんの約5%、卵巣がん患者さんの約15%がHBOCである事が分かっています。

## ●2020年4月よりHBOCに関する診療の一部が保険適用となりました

乳がん、卵巣がんを発症された方のうち、血液を使ってBRCA遺伝学的検査を行いHBOCが確定診断された方に対して、リスク低減手術（後述）や検診の一部が保険適用となりました。BRCA遺伝学的検査も、乳がんを発症された方の一部と卵巣がんを発症された方は、保険で行うことができます。



### 【BRCAの遺伝子検査が保険適用となる方】以下のいずれかにあてはまる方

- 乳がんを発症された方のうち
  - ・45歳以下で乳がんを発症
  - ・60歳以下でトリプルネガティブ乳がんと診断された
  - ・2個以上の原発乳がんを発症
  - ・第3度近親者内に乳がんまたは卵巣がんを発症した方がおり、家族歴からHBOCが疑われる
  - ・男性乳がん
- 卵巣がん、卵管がんおよび腹膜がんを発症された方すべて

## ●HBOCと診断された方に対するリスク低減手術について

がんを発症する前に乳房や卵巣を切除するリスク低減手術（リスク低減乳房切除術やリスク低減卵管卵巣切除術）により死亡リスクの減少が期待できます。リスク低減手術やそれに伴う乳房再建は、乳がんや卵巣がんの既往がありHBOCと診断された方に関して保険適用下に実施可能です。HBOCと診断されていても乳がん・卵巣がんとも未発症の方については、リスク低減手術やそれに伴う乳房再建はこれまでどおり自費での実施が可能です。詳しくは、乳腺科、婦人科の主治医にご相談下さい。

### HBOC診療チーム



乳腺科



リスク評価センター（遺伝診療部門）



婦人科

# Cancer Boardは愛知県がんセンターの目玉です！

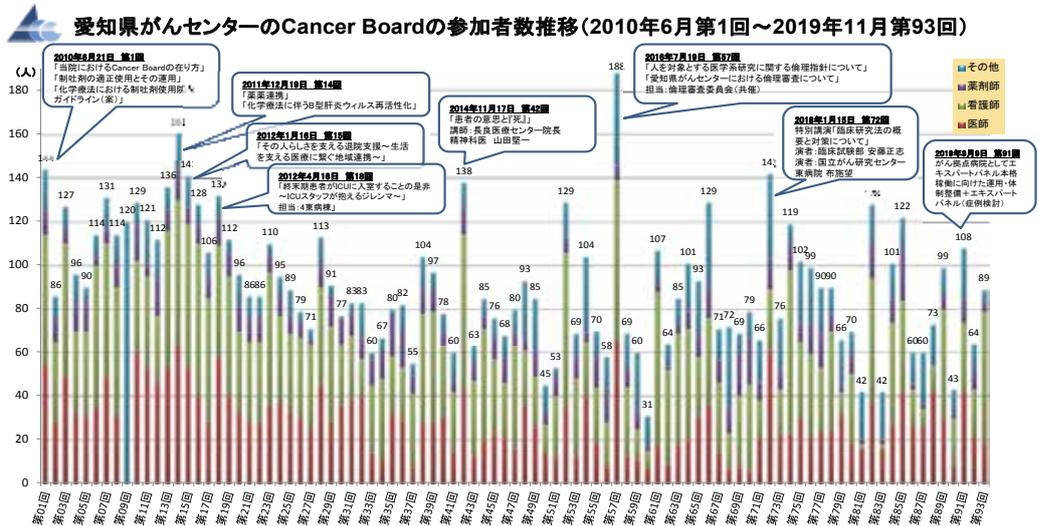
Cancer Boardは、2010年6月から現副院長・薬物療法部長の室 圭をリーダー、現緩和ケアセンターGMの向井未年子をサブリーダーとしてスタートし、10年経過しました。一般には、多職種で症例検討を行うカンファレンスの位置づけですが、当センターの場合は、ひと味もふた味も違います。病院、研究所、事務職員、その他センターの全職員を対象に、多職種が一堂に会して、現在のトピックやホットな話題、センター内で問題や課題になっていることを、一方的な発表ではなく、双方向の意見交換を行う議論する場です。2020年3月～6月までは新型コロナウイルス感染症拡大予防のため休止しておりましたが、7月から再開し、「新型コロナウイルス感染症にどう立ち向かうか？～がんセンターとして、第二波、三波への対峙の仕方、withコロナ時代の病院診療、生活様式のあり方を検討する～」と非常にタイムリーなテーマだったこともあり、146名と多数の参加者で賑わいました。9月第98回は、当センターで新しく立ち上がったAYA世代WGが発信する「AYA世代のがん、妊孕性の問題」がテーマです。9月より、WEB視聴・参加も可能として、新時代にマッチしたカンファレンスとして生まれ変わります。愛知県がんセンターの名物、Cancer Boardにご注目ください。



副院長  
兼薬物療法部長  
室 圭



緩和ケアセンター  
ジェネラルマネージャー  
向井未年子



## 「研究所報告会」を開催しました

研究者が一年間の研究成果を発表する「研究所報告会」を、新型コロナウイルス対策のため数回に分けて愛知県がんセンター内で開催しました。

2020年7月29, 30日に開催した報告会では、研究者によるフラッシュトーク（英語）とポスター発表を徹底した感染予防対策のもとで行いました。ポスターセッションでは、最新の研究データが掲示され、共同研究の可能性も含めて議論が深まりました。

また8月から9月にかけては、各分野の目指す方向性や研究成果などについて、分野長が週1回計4回のオンライン形式にて発表しました。

新型コロナウイルスの影響により、例年の口頭発表を主とした開催形式とは異なりましたが、各分野・研究者の研究内容を詳しく知ることができ、大変有意義な会となりました。



腫瘍制御学分野長 小根山千歳

# とろく医探訪

## なごや東在宅ケアクリニック 院長:大江 公晴 先生



日頃より愛知県がんセンターの先生方・スタッフの皆様方には大変お世話になっております。いつも迅速かつ丁寧に対応いただき感謝しています。愛知県がんセンターとの連携は、主治医との診療情報提供だけでなく、地域医療連携・相談支援センターの看護師さんとも詳細に情報共有・交換できること、愛がんネットでリアルタイムの情報を知ることができること等、在宅医として本当に心強いです。

2014年に開業し、7年目を迎えることができました。当クリニックは在宅支援診療所で、かかりつけ医への通院が困難となった方のご自宅に伺う訪問診療を主とするクリニックです。在宅かかりつけ医として、定期的な診療に加え、急変時も24時間365日対応しています。

患者さま・ご家族さまの多くは、様々な悩み・苦痛を抱えていらっしゃいます。私は治療だけでなく、患者さま・ご家族さまのこころのケアにもしっかりと向き合いたいと思い、なごや東在宅ケアクリニックと名付けました。訪問診療だからこそできる在宅緩和ケア、その人らしい人生が送れるような診療を心掛けています。

今後も「1人1人の大切な生命を診させていただいている」との思いを忘れず、微力ながら在宅医として地域医療に協力できれば何よりです。あわよくば私自身が床に伏した時、この地域で安心して自宅療養できる環境が整えられていることを願い、この地域に在宅医療が根差すお手伝いできれば本望です。今後とも連携、御指導お願い致します。



なごや東  
在宅ケアクリニック

### 【医療機関情報】

## なごや東在宅ケアクリニック

診療科目／緩和ケア内科、ペインクリニック内科、産婦人科

電話／TEL 052-783-7581 24時間・365日対応

所在地／〒465-0077 愛知県名古屋市名東区植園町3丁目18番地



### ★当クリニックで対応可能な管理：

訪問診療と緊急時の往診、癌性疼痛管理、緩和ケア、在宅ホスピス、難治性疼痛に対するペインクリニック、人工呼吸器、気管切開管理、在宅酸素療法、中心静脈栄養・経管栄養、尿道カテーテル・自己導尿、認知症、褥瘡(床ずれ)のケア、リンパ浮腫ケア等。

### ★私たちが目指すもの：

1. いつでも伺います

2. こころのケアを大切にします

3. 在宅緩和ケアを支えます

編集後記：第17回は名東区「なごや東在宅ケアクリニック」です。在宅医療を専門にしたクリニックですので、患者さんのお住まいが診察室となります。クリニックのほのぼのとした素敵なシンボルマークから、大江先生、収子先生の目指すべきクリニックの姿とチャレンジが伝わってきます。<Y.SANO>

# ディープラーニングによるDNA配列決定法の開発

研究所 システム解析学分野



システム解析学分野長  
山口 類

細胞中のDNAには、遺伝情報が四種類の塩基（A, T, G, C）が並んだ配列として保持されています。人間の1細胞中のDNAは46本の染色体に分かれ、計約60億個の塩基の対の配列が含まれます。

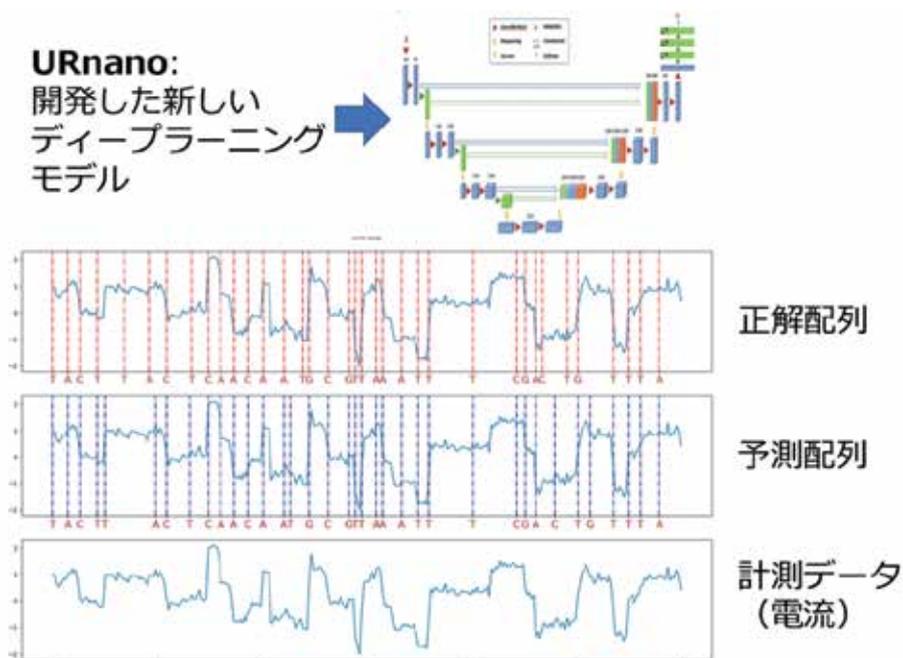
がん細胞の中では、それらの配列に様々な変異が生じていることがわかってきています。その結果、当センターでも推進しているがんゲノム医療のように、変異に応じた治療法の選択等が行われるようになってきました。

そのためがん細胞中のDNAの塩基配列を正確に決定し、変異を検出することは重要な問題です。DNAの配列を測定する機器として、ナノポアシーケンサーの開発が近年進められています。これは1万塩基以上が連続し

た長い配列を測定できる利点があります（現在主流の機器では150塩基程度）。しかし、まだ得られるDNA配列の正確性が低い点が問題となっています。これはDNA中の塩基配列を測定して得られる電流のパターンが複雑であり、そこから元の塩基配列を予測して復元することが難しいためです。

我々は、この問題を解決するためにディープラーニングに基づく方法を開発し、精度よくDNAの配列を決定できるようになりました。更なる改良を続け、医療の現場に役立つ情報を届けられることを目指しています。

URnano:  
開発した新しい  
ディープラーニング  
モデル



ディープラーニングモデルによるDNA塩基配列の予測。  
Zhang et al., BMC Bioinformatics, 2019.

## 共通機器室 スタッフの紹介

共通機器室では現在、室長1名（兼務）、研究員1名、技師1名（育休中）、非常勤職員1名のスタッフで、研究所全体の研究活動を円滑に進めるために必要な種々の管理・サービス業務を行っています。具体的な業務は、(1) 研究所共通機器管理運営委員会との連携による共同利用機器の整備と維持・管理、(2) RI 実験施設の維持・管理、及び病院・研究所の放射線業務従事者の被ばく管理、(3) 毒物・劇物、及び危険物の管理、(4) セキュリティシステムの維持・管理、(5) 施設・設備全般の維持に関する対応など、多岐にわたります。



写真：左から、箕浦非常勤職員、青木室長（兼務）、組本研究員  
左上四角囲い、中井技師

## 腫瘍内科医、ただいま育成中！

病院 薬物療法部

薬物療法部は、食道がん・胃がん・大腸がんなどの消化管がんを中心に、頭頸部がん、肉腫（サルコーマ）、原発不明がん、胚細胞腫瘍、泌尿器科がん、婦人科がん、乳がんなど幅広い固形がんに対する抗がん剤治療を専門とする診療科です。がん薬物療法の専門家である腫瘍内科医（がん薬物療法専門医6名、指導医4名）で構成されています。

腫瘍内科は、欧米に比べ、日本では歴史の浅い診療科ですが、最近の高度・専門化しているがん診療を適切に行うためにますます必要とされている存在です。今年は初めて腫瘍内科医を主人公としたテレビドラマが放送されるなど、年々注目度が上がっている科です。まだまだ腫瘍内科の認知度の低かった、自分が駆け出しの頃の10年前とは隔世の感を禁じ得ません。

2008年度からこれまでにおよそ30名のレジデントが研修を受けてきました。卒業生は全国の主要ながんセンターや大学

病院などに所属し、一線級の腫瘍内科医として活躍しています。現在も5名のレジデントが所属し、日々研鑽を積んでいます。

我々薬物療法部は“世界の臨床を変え、それを患者さんに還元する”ことを使命に日々の診療、研究、教育にこれからも邁進していきます。

医長 本多 和典



写真：後列左から、熊西亮介（レジデント）、成田有季哉（医長）、門脇重憲（医長）、本多和典（医長）、舛石俊樹（医長）、坂東英明（医長）  
中列左から、松原裕樹（レジデント）、能澤一樹（レジデント）、緒方貴次（レジデント）  
前列左から、安藤正志（医長/臨床試験部部長）、加藤恭子（医員）、中澤泰子（レジデント）、室 圭（部長）

## 形成外科部

## スタッフの紹介

形成外科部は頭頸部再建、乳房再建、リンパ浮腫治療など、様々な領域のがん患者さんの機能的・整容的な改善を目的とした治療を行なっています。上記以外にも顔面神経麻痺に対する静的および動的再建手術、キズやキズアトの治療、がん治療後の変形や機能障害などに対する治療も行なっています。

患者さんの目線に立ってよく話を聞き、がん治療やがん自体で下がってしまう患者さんのQuality of Life (QOL, 生活の質) を少しでも上げてより良い社会生活がおくれるようお手伝いすることを念頭に診療に当たっています。

お困りのことがあれば是非相談して下さい。



写真：後列左から 丸山陽子（医長）、高成啓介（部長）、奥村誠子（医長）  
前列左から 加藤真帆（レジデント）、姜 成樹（シニアレジデント）、中村亮太（医長）

# コロナ禍でも緩和ケア ～当院での緩和ケアの実践について～

病院 緩和ケア部



緩和ケア部長  
下山 理史

新型コロナウイルス感染症拡大により世界中の人々の生活に影響がでました。治療現場でも申すまでもありません。外来や入院診療の制限、面会・付き添いの制限、過ごす場所や行動の制限など様々な「制限」が加わりました。大変おつらい思いをされておられるのではないかと思います。

以前行われた緩和ケアに関する有名な研究では、様々な方々が共通して大切にしていることの中で、「望んだ場所で過ごす」「家族や友人と十分に時間を過ごせる」「落ち着いた環境で過ごせる」「ひととして大切にされる」など、また人によって大切さが異なるが重要なこととして、「大切な人に伝えたいことを伝える」「先々起こることを詳しく知っている」「病気等を意識せずに過ごせる」が挙げられました。

大切にしていることが失われがちな今、私たちにできることは、見通しが立ちにくい事態でありながら「今、何ができるか」「これから何をすればよいのか」を皆さんと一緒に考え、最大限の支援をさせていただくことです。これは、まさに緩和ケアの一つです。

薬だけでは治せない治療・療養中の様々な苦痛（制限もその一つ）を様々な工夫を用いて和らげ、軽くし、なくすることを一緒に考え実践していく。これこそが、当院の緩和ケア専門職が提供している緩和ケアです。

新型コロナウイルス感染症が拡大しているこの時期に、いの中に関わるような病気で入院中の患者さんのご家族にお伝えしたいこと

- まず、ご家族もできる限り感染を予防してください**  
現在、政府からも感染を予防するポイントが示されています。できるだけ外出や人との接触を減らし、こまめに手指をハンドソープで洗ったり、アルコール消毒し、会話する時にはマスクを着用してください。このことは、医療スタッフからの業務で病院を訪問する場合には非常に大切です。方々、患者さんの状態が変化した場合にもすぐに病院に行けるように、普段からの健康管理は患者さんのためにもとても重要です。
- 病室に持ち込めるようなら、ご家族の写真やメッセージカードを用意されてはいかがでしょうか**  
入院病棟は感染拡大の防止の目的で面会が制限されていることが多く、ご家族が患者さんにお会いすることが難しくなっています。しかし、患者さんはご家族のことが気になっておられると思います。もし病棟の許可があるようでしたら、ご家族の写真やご家族からのメッセージをまとめて病棟スタッフに渡されてはいかがでしょうか。施設によっては、お子さんやお孫さんも参加して作成した寄せ書きを病室内に掲示することができる場合もあります。
- ノートのやりとりで想いを伝えてみてはどうでしょうか**  
患者さんとのやりとりはなかなかタイミングが難しいかもしれませんが、また、携帯電話やSNSが得意でない方も少なくないと思います。昔、「交換日記」というものが流行った時代がありましたが、文字で気持ちを伝えるにはいかがでしょうか。ただし、ノートを介しての感染が指摘されることもありますので、表紙をアルコール綿で拭き取った方がいいかもしれません。

- スマートフォンやタブレットの使用については、病院スタッフと相談してください**  
面会に代わる方法として、患者さんとご家族がタブレットやスマートフォンなどによってコミュニケーションを行うことができます。病棟内でこれらの機器が使用できる環境を整えている施設もあります。また、アプリなどを使用し、声によるメッセージを届けることもできるようです。患者さんが得意な場合には、医療スタッフがお手伝いできるかもしれません。ご希望がある方はご相談ください。
- 患者さんのことをたくさん教えてください**  
医療スタッフはそれぞれ個性が異なる患者さんの希望に沿った支援をしたいと思っています。当然、ご本人からの希望にできるだけ応えたいと思っていますが、私たちがお話をうかがうだけでは十分ではないかもしれません。患者さんの性格、嗜好、大切にしておられること、気がかりなことを是非遠慮なく私たちに教えてください。簡単にまとめて、メモなどでスタッフにお渡しいただくと、患者さんを深く理解するのにも大助かりです。
- 可能ならご自宅での介護を検討されませんか**  
入院病棟における面会制限は、残念ながらしばらくは続くそうです。したがって、人生の残り時間が短い時期にご家族と離れられなくなってしまっても構いません。病棟スタッフや、がん相談支援センターの医療ソーシャルワーカー、地域包括支援センター等に相談の上で、お住まいの地域の在宅医療の状況によっては、ご自宅での介護を検討されるのも一つの方法かもしれません。

現在、病院での入院治療においてはご家族に大変ご迷惑をおかけしておりますが、入院患者さん、ご家族にとってはかけがえのない大切な時間であることに変わりはありません。ご相談させていただき、ご家族にとっても思いが強いように支援させていただきたいと思っております。

厚生労働省委託事業 緩和ケア普及啓発活動  
特定非営利活動法人日本緩和医療学会

## 婦人科部 スタッフの紹介

婦人科部は女性生殖器に発生する悪性腫瘍の診断・治療を行っています。7月からは手術入院の際にERAS (Enhanced Recovery After Surgery=術後回復の強化) プロトコルを導入し、より適切な周術期管理・チーム医療を実現すべく取り組んでいます。“標準治療”の質向上だけでなく、新規治療開発・確立を目指し、臨床研究や治験の実施についても積極的に行っております。

挿写真の語句は現体制になってからスタッフ各自が持ち寄った候補の中から選出した当科のロゴ入りスローガンになります。スタッフ一同でスローガンの心意気を持って地域における当院の責務を果たして参ります。



(婦人科腫瘍の)  
Gatekeeperたれ!

写真：後列左から、坂田 純 (医長)、鈴木史朗 (部長)、森 正彦 (医長)  
前列左から、坪内寛文 (医長)、西野翔吾 (レジデント)

## 新任医師 の 紹介

消化器外科部  
藤枝 裕倫

10月より赴任いたしました藤枝裕倫と申します。食道癌の外科診療を専門にしています。食道癌手術は患者さんへの負担も大きなものですが、安全で質の高い手術治療を目指すとともに、少しでも負担が少なくできるように、丁寧な診療を努めていきます。今後ともよろしくお願いいたします。



## 医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分 (祝日、年末年始を除く)
電話	052-764-9892 (直通)
FAX	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	<a href="https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/">https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/</a> 病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。 利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

## 外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科(サルコーマ外来)、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、精神腫瘍科、緩和ケア科(ペインクリニック)、リンパ浮腫外来、リスク評価センター、がんゲノム外来
外来診療担当一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911 (直通) 午前9時～午後5時 (土・日・祝・年末年始を除く)  
 ※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)  
 ※精神腫瘍科、リスク評価センターは、予約のみの対応です。

## 交通のご案内

### ★公共交通機関のご案内

- 地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分
- 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩3分

### ★車でアクセスのご案内

- ◎一般道路  
本山交差点から北へ約7分、平和公園の北西
- ◎高速道路  
東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分  
名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター 〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 編集：運用部 経営戦略課 企画・経営グループ

ホームページ <https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

「がんセンターNEWS」に関するご意見・ご感想は [☒\(kohonews@aichi-cc.jp\)](mailto:kohonews@aichi-cc.jp) または FAX(052)764-2963 にてお寄せください。

なお、個別の返答は致しかねますのであらかじめご了承ください。